

さけ・ます増殖管理推進事業調査（サクラマス関係）

（抄録）

高坂 祐樹

沿岸分布回遊調査

1999 年春季のサクラマス幼魚の標識放流尾数は太平洋では 35,891 尾、陸奥湾では 40,498 尾、日本海では 94,429 尾であった。標識魚再捕報告件数は 78 件で、そのうち 44 件が日本海放流群であった。再捕状況から、日本海放流群が太平洋を南下する経路は、北海道太平洋沿岸を西進し、津軽海峡を抜け日本海に回遊するものと推察された。また、放流場所である日本海での再捕割合は全再捕件数の 1 割にも満たず、回遊途中での漁獲による減耗が多いことがうかがえた。

幼魚混獲調査

1999 年 3～6 月に県内 7 地区において、定置網で混獲されたサクラマス幼魚について、体サイズや雌雄比、胃内容などを測定した。採集尾数は太平洋側 128 尾、日本海側 38 尾で合計 166 尾であった。胃内容の重量組成では太平洋側、日本海側ともに魚類の割合が最も高かった。太平洋側、太平洋側の魚類の割合はそれぞれ 51.4%、97.7%であり、日本海側は魚類に大きく依存する傾向が窺えた。一方、太平洋側ではオキアミやタンキヤクなどのプランクトンを摂餌しており、多様性に富んでいた。

沿岸漁獲量調査

青森県全体の 1999 年のサクラマス漁獲量は 284 トンで、前年に比べ 4.6%の減少となった。海域別でみると津軽海峡地区が 149 トンと前年を 37%上回ったが、日本海は 31 トンと前年より 46%減となった。

主要港における市場調査

調査地区それぞれの標識魚混入率は、白糠が最も高く 9.31%、次いで大畑が 1.58%、大戸瀬・深浦が 0.76%であった。

発表誌名：平成 11 年度さけ・ます資源管理・効率化推進事業調査報告書 平成 13 年 3 月 青森県